

闇を厭をて一翫に走まると弦矢よりも疾く趨着て聲をも吸ひ一  
 撃にあさんとせしが渠も名士鄙怯の傲もほごつと素知らぬ怒りて行過  
 るに先達なりたるを後追これ先秀が我をして殺せんとせりや悟り  
 喃待りて其許に誰やあると叫出られ發せしむるが當言汝ぬらうと叫  
 せり六开も又執をとを倚せ野分構ひ伺むともなうと知るに唯先  
 秀が謀叛に加擔せびその密謀に唯唯と口より他へ漏れやせんうと怖して殺  
 刺に某るものありん。唯も武門は生れ託之。非命に死せざるを願ひし然と  
 て汝も主命奉之。怯足勞せし功に。初割させんと謂もそて。唯も肩脱ぐ  
 肝刺斬まば孫十郎の嗟嘆しつ。首極落して立降りて後追が最期の始終  
 せ。若る改聆て日向守落海して七嘆じたる其の闇に織田若大信長公の因月女  
 九日せりて。素蘭丸同房丸同力丸湯淺甚助。金素丸入妙徳と三百餘人を俱  
 奉し。上洛ありて。四條西の洞院本能寺に在りし。本能寺に  
 所縁館ありて。中國の羽柴へ所加勢を諸國の武士へ所指揮し。備中  
 將信忠師ハ。母友新五郎。毛利新助。菅原九右衛門。福富平兵衛。國平八郎  
 倅。又百餘人を率從し。三條の堀に入せり。信長公の所來子。源三郎。信長公の  
 田又十郎。同助七倅と備中。之子餘騎に。妙覺寺に寄宿せし。緒羽の番  
 向と相等なる。可慮りしや。信長公。天下の武門を招きて。子行に重んじ。所身  
 ながら。僅三百餘人に。寺院小狭痛く。入釋。治世といふとも危き。小増て。我必  
 の時ふおひしや。是禍蕭牆の内ふ。起るに。汝知らざる。其を。謀害し。りたる。終  
 始なり。然るに。不曉。六月末の朔日。先秀諸士を。集む。門々の名を連録  
 て。留。明智左馬之助。光俊。同十郎。左衛門。光親。後。同。治。右。侍。光。忠。妻。本。至  
 針。正。範。賢。先。秀。の。妻。三。宅。友。之。侍。綱。朝。海。尾。庄。之。侍。後。朝。皆。柄。の。よ。く。似。たり。

本能寺に在りし。今、糸極通り、押小路に移されたり。